

<賛否が分かれた議案等>

今会議ではいくつもの議案・意見書・請願が提出されました。その中で賛否が分かれたものについて、私の立場とあわせて以下に記します。

| 議案等の要旨 | 議会の可否 | 重野の賛否 | 備考・重野の意見 |
|---------------------------|-------|-------|--|
| 市議会の議員定数を26名から22名に減らす議案 | 否決 | 反対 | 人口で議員人数を決めるのではなく面積や原発立地地区という地域性を考えると22名では少なすぎると考える。 |
| 少人数学級の早期実現の意見書 | 可決 | 賛成 | 意見書提出者・意見書紹介議員。 |
| 義務教育費国庫負担制度拡充の意見書 | 可決 | 賛成 | 意見書紹介議員。 |
| 安保保障関連法案の徹底審議を求める意見書 | 可決 | 賛成 | いわゆる戦争法案を国会で十分審議してほしいという要望。 |
| 労働者派遣法改正案、労働基準法改正案の撤回の意見書 | 否決 | 賛成 | 派遣労働者と正規労働者の間の均等待遇の確保の推進という要望。 |
| 市議会議場に市旗・国旗の掲揚の請願 | 可決 | 賛成 | 教育現場でも行われている国旗の掲揚。議場での掲揚も個人への強要ではなく、自然なこととして受け止めた。 |
| 柏崎刈羽原子力発電所の早期運転再開の請願 | 可決 | 反対 | 議論も十分行われていない中での採択は拙速であると考える。イデオロギーとしての反対ではなく、採決には時期尚早と考える。 |

反対討論の要旨

今回の請願については趣旨説明やそれに関する質疑の場が設けられており、それによって請願者の趣旨は概ね分かりました。しかし、だからといって今回の総務常任委員会での1回の議論だけでその賛否を問うのはあまりにも拙速すぎると思います。原発再稼働について考えなければならない視点はいくつかあると思います。その中の1点だけを論じるだけで原発再稼働について考えなければならない視点はいくつかあると思います。多くの市民が抱いている思いをしは柏崎市民の多くが抱いている思いの代弁者にはなりえないと考えます。多くの市民が抱いている思いをしっかりと受け止め、考え、論じていくことこそが議会の使命だと考えます。将来の子どもたちのことを考えるのであれば、原発に頼らないエネルギー開発、原発に過度に依存しない柏崎を、今の経済効果としての原発再稼働推進とあわせて強力に推し進めようとする姿勢が必要だと感じます。さらに、東電自身も現在は原発の再稼働を論じる時ではないと言っていることも含め、柏崎市議会では原発に関してまだ議論を深めていない中でのこの請願の採決は、議会の信用問題にもつながりかねない重要な問題だと考えます。

▼議員になったことで、「北園町内会顧問」「北部町内会（北園町・栄町・新花町・桜木町・柏木町）顧問」「中央コミセン顧問」となりました。よろしくお願ひします。▼また、「新潟県退職教職員連絡協議会」「新潟県退職公務員連盟」「柏崎陸上協会」などの会員もあります。町内会等を含め、各団体の行事等には日程調整がつき、可能な限り参加してご指導を受けたいと思います。▼後援会の入会者が増えています。このようないい会報を通して活動を報告させていただきます。ご支援の輪をさらに広げていただけると幸いです。お声かけ、ご入会、よろしくお願ひいたします。
重野正毅

「重野まさき後援会」への入会を希望される方、または、ご意見・ご要望等がございましたら、後援会事務所まで直接ご連絡ください。インターネット・ホームページから、Eメールでもご連絡いただけます。

後援会事務所 0257-24-1671 ホームページ <http://www.m-shigeno.net> メール info@m-shigeno.net

人を、まちを、未来を、つなげる 重野まさき通信

第2号 平成27年7月21日発行
発行：重野まさき後援会
事務所：〒945-0072 柏崎市北園町19-47
連絡先：0257-24-1671
発行責任者：入澤 稔（後援会内部討議資料）



柏崎市議会 重野まさき議員の誕生を祝う

後援会長 入澤 稔

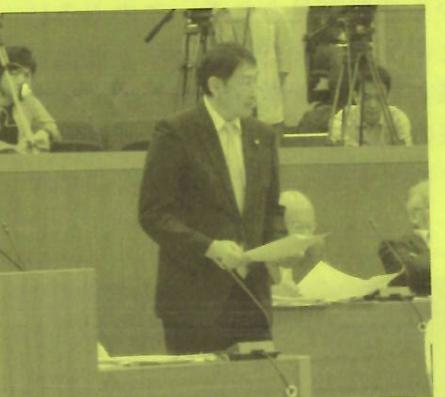
多くの皆さんのご支援を得て、厳しい選挙戦を勝利することができました。3月まで教育現場で奮闘し出馬への準備も十分できない中、4月の前半は県議選があって動きづらく、まさに短期決戦を勝ち抜いたといつても過言ではありません。前教育長の小林和徳さん、退職校長会長の伊藤明さん、新退教の小林公一事務局長さんが中心となった選対本部の適切で見事な戦略・戦術の勝利がありました。

6月5日に始まった定例市議会では会田市長をはじめ市政の主要役職、ベテラン議員、報道関係者等のなみいる市議会で、重野まさき議員は一般質問を行いました。質問内容や姿勢も新人議員とは思えない堂々としたものでした。

教育環境の整備・充実を単発的な質問内容とせず、「人を、まちを、未来を」につなげるまちづくり、「元気で魅力ある柏崎」を目指す中で、市長、教育長に質問し、回答を得て意見を述べるスタイルありました。これからも活躍が大いに期待できるデビューとなつたといえましょう。

6月定例会議終了

当選後の初めての定例会議でした。一般質問をしたり、請願を提出したり、本会議での討論をしたり、文教厚生委員会での活動をしたり、と内容の濃い定例会議の期間でした。また、今定例会議では「原発再稼働の請願」が提出されるなど、社会的にも注目の大きな会議でもありました。あるベテラン議員は、改選後すぐの6月定例会議でこんなに盛りだくさんの、内容も濃い会議は初めてだったと言います。私にとっては様々な貴重な体験をさせていただき、議員としての第一歩を踏み出したと実感した会議でした。



<一般質問の内容>

一般質問とは、市が行っている、あるいは計画しているすべての取り組み等に対して、市長や行政当局に質問したり自分の意見を伝えたりする場です。議員は一人30分の持ち時間があり、一問一答で市長や当局とやり取りします。インターネットで生中継されています。今までの映像も見ることができます。以下は今回の私の一般質問の内容・質問要旨・答弁回答の抜粋です。

1 柏崎市の学校教育について

(1) 県立高校や大学の入試制度の変更に対応するための柏崎市的小中学校における教育活動の在り方や方向性

(質問要旨) 県立高校は今年度から入試制度が変更され、大学は2020年度から入試制度が変更される。今まで重視していた学力観や評価の在り方を指導者のみならず保護者など社会全体としてもえていかなければならぬと感じる。これからの中学校における教育活動の在り方や方向性をお聞きしたい。

(教育長答弁抜粋) 社会の形成者として自立して生きるための力を育成するため、身につけるべき力や学習のとらえ直しが評価のあり方の転換や入試制度改革の背景にある。こうした背景と合致するよう、保護者や地域も一体となり確かな子どもの成長を目指す「ともに歩む地域の学校づくり」の推進の中核として、9年間を見通した「小中一貫教育・柏崎方式」、よりよい習慣形成を進める「柏崎の教育333運動」に力を入れ、将来にわたる「生きる力」を育むため、アクティブラーニングと言われる自ら問題を発見し、解決に向け主体的・協働的に学ぶ学習を進める授業改善に取り組んでいる。今後もさらに充実した学びが提供できるよう努めていく必要があると考えている。

(2) 児童生徒のネット機器等メディア使用について（仮称）「こども共同宣言」の取りまとめの進捗状況と学校、家庭、地域の理解の度合いと支援体制の状況

(質問要旨) 昨年度行われた柏崎の教育を語る会で発表があったように、子ども側からメディア使用についての約束事を提案することになると予想しているが、その提案に向けての進捗状況と特に家庭や地域の方々の理解や受け取り方、支援体制の状況はどのようなものかをお聞きしたい。

(教育長答弁抜粋) 名称は「中学生メディア共同宣言」になる予定。現在市内全中学校の生徒会に向けた趣意書を作成中であり、メディア機器の使い方に関する宣言をみんなでつくっていこうと呼びかけている。12月に宣言をまとめる予定である。地域の方々でこの取り組みを知っている方々からは好意的に受け止められており、宣言策定後各学校から保護者に文書や集会などでさらに広く説明し啓発や協力を呼び掛けていく。市教委は教職員や保護者に対してメディア機器に関する指導指針を示す、情報教育指導資料集を作成している。これを活用しながら実態に応じた指導を進めていく。また、大人が子どもに通信機器を買い与えることとあわせて、なぜ子どもたちはバーチャルな世界に入り込んでいくのかを考えしていくことが大切であり、その指導も継続的に進めなければならないと考えている。

(3) 柏崎が大好きだと言える子どもを育てる学校教育の在り方や方策

(質問要旨) 将来柏崎で働きたい、生活したいと思う児童生徒が増えることが人口減少解消の一つの方策につながると考える。学校教育の中で子どもたちが柏崎が好きだと思う心を育むための方策や取組をお聞きしたい。

(教育長答弁抜粋) 中学校区の特色を生かした取り組みとして、9年間を通してのふるさと学習に取り組み、地域の一員として自分たちができることを考え、市に提言していく活動が見られる。このように人との関わりを通して、柏崎が好きだという子どもたちが増えていくと考える。また、市全体で推進するシティセールスの取組との関連を図りながら、市教育センターの事業として柏崎学ワークショップを開催する。この研修講座は教職員と観光自然文化などの各担当者が未来の柏崎を学んでいくとともに、市民全体で柏崎を支えていこうとする意識を高めていくものであり、それが愛郷心を育む活動につながっていくと考える。

2 スポーツの振興について

ジュニアのスポーツ強化と振興、楽しみや生涯スポーツとしてのスポーツ振興に対する支援策

(質問要旨) 来年度、中学校の夏季スポーツの全国大会が北信越地区で開催される。また今年は5年に一度の柏崎市大運動会が行われる。スポーツは競技力の向上だけでなく、心を磨き健康を増進させ、生きがいとして取り組めることがそのよさである。その振興のため柏崎市として施設設備の整備、指導者の育成など予算面等でのサポートが不可欠であると考える。今後のスポーツの強化や振興に向けての支援策をお聞きしたい。

A man in a dark suit and striped tie stands behind a light-colored wooden podium, speaking into a microphone. He is looking slightly to his left. In the background, two other people are seated at a table. To the left of the speaker, a yellow box contains Japanese text. The text is a transcription of the speech:

信越地区で
れる。スポー
がいとして
て施設設備
ると考え
たい。

(教育長答弁抜粋) スポーツは競技力の向上だけでなく、心と体を成長させるスポーツも重要だと認識している。市教委では競技スポーツの育成として「学校運動指導者派遣事業」「小中学校選手派遣補助金」「地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業補助金」を通して小中学校の競技力の向上に努めている。生涯スポーツの観点からは、小中学校の体育では教師や外部の指導者があらゆる場面で子どもたちのよいところを認め、評価し自信をつけさせながらスポーツのもつ楽しさを教えるように取り組んでいる。地域では71名のスポーツ推進委員、38地区の地区体協が生涯スポーツ振興に努めている。今後の強化支援策はレベルの高い大会の開催や東京オリンピックに絡めた合宿を誘致することにより一流のプレーに接する機会を増やしていく。柏崎市スポーツ推進委員協議会の新規自主開催事業としてのスポーツ大会の企画運営支援を行うなど関係機関との連携を強めながら競技力の向上と生涯スポーツの普及振興に努めていく。

3 児童生徒の通学の安全確保について

児童生徒の通学路における危険箇所の改善・改修についての優先順位と資金確保の方策

(質問要旨) 全国を見ると、通学路が整っていても、通学方法に問題がなくても大きな交通事故や不審者等による事件が絶えない。柏崎市でも各学校や町内会から道路事情などで危険が予測される箇所が市の当局に上がってきてていると思われる。物理的なものや予算面からもすべてをすぐに解決することは難しいことは分かるが、特に通学路の危険箇所の改善・改修についての優先順位や今後の改修等についての方向性をお聞きしたい。あわせて、現状において児童生徒の通学時における安全確保をさらに強化していく方策をお聞きしたい。

(市長答弁抜粋) 通学路の安全確保は関係者が協力して取り組まなければならない。柏崎市では昨年度、通学路安全推進会議を立ち上げた。各小学校等から危険個所を報告してもらい、必要に応じて推進会議のメンバーが現地に出向き、合同で点検し、緊急性、改修方法を明確にし、それに基づき関係機関が順次具体的な対策を講じている。具体例として、歩道部分のカラー舗装化、側溝のふた掛け、防風柵の整備、区画線の再塗装、標識や看板の設置など。登下校時ではPTAや地域の方々が街頭指導や見守り活動をしている。緊急時には学校職員が児童生徒の引率や巡回を行っている。通学路における安全確保の更なる強化は、通学路安全推進会議において実態の把握・対策の実施・対策効果の検証・改善を繰り返し行うことで、安全確保を進めていく。



* 次回の定例会議は9月7日(月)～10月13日(火)の予定です。定例会議までの間に、会派で福島県への視察に行ったり、個人研修として県外に行ったりします。それらの視察研修報告等は次号でいたします。